

分枝型膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の前向き追跡調査 (多施設共同研究)

膵疾患に対しては、CT・MRI・EUS(超音波内視鏡)・ERCP(内視鏡的逆行性胆管膵管造影)などで腫瘍の局在・形態などを詳しく調べ、また膵液を採取して悪性の有無などを調べて診断を行い、必要に応じて治療方針を決定します。本研究においても従来同様の検査(CT・MRI・EUS・ERCP など)で IPMN の評価を行っていきます。IPMN に対して治療を必要とする場合には、症状を繰り返す場合や、発癌を認めた場合などがあります。治療には手術(膵切除など)や抗癌剤、放射線療法などがあります。いずれの治療を行うかは、それぞれの病気の進行度や、併存疾患、全身状態などを総合して主治医が決定します。治療の必要性や治療の方法などについては必要な検査が終了した後、主治医から改めて説明があります。本研究に参加することで治療上、患者さんが不利益を被ることはありません。本研究の目的は、計画的に行われる画像検査を中心とした診療で分枝型 IPMN 追跡することによって、IPMN の進展や通常型膵癌合併を早期に発見し、分枝型 IPMN の癌化率や通常型膵癌合併のリスクなどを明らかにすることを目的としています。

本試験は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。